

大阪の一診療所における訪日旅行者の医療状況と課題（1） —2010～2019年のデータの医療側面の分析を中心に— Medical situations and present issues of foreign travelers focusing on medical aspects in a clinic in Osaka from 2010 to 2019 (part1)

李 雲柱1) 2)、呉 知恩3)

- 1) イークリニック、2) 大阪経済法科大学 21世紀社会総合研究センター
- 3) 大阪樟蔭女子大学 文芸学部 ライフプランニング学科

グローバルヘルス合同大会2020大阪 利益相反開示

筆頭発表者名： 李 雲柱

本演題発表に関連し、開示すべき利益相反関係
にある企業などはありません。

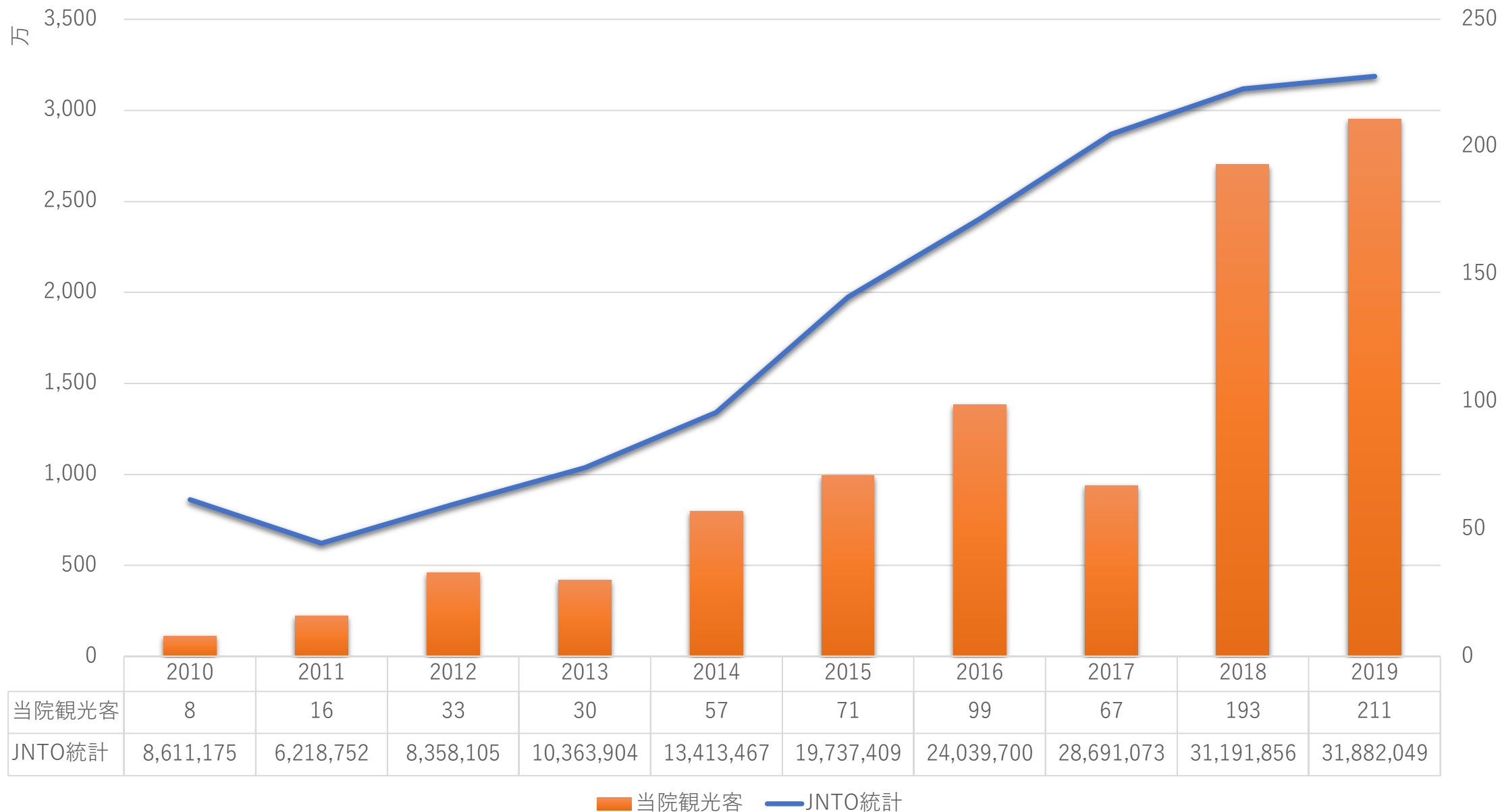
[背景と目的]

2021年開催予定の東京オリンピックにはCOVID-19の影響が危惧されるが、2025年の大阪万博など長期的には多くの訪日旅行者の医療機関への受診が予想される。しかし、プライマリレベルの診療所における訪日旅行者の医療データの分析は少ない。本報告では当院の訪日旅行者の医療状況と課題について報告する。

[方法]

2018年1月1日から2019年12月31日までイークリニックを受診された訪日旅行者を電子カルテから抽出して受診者数、性別・国籍別・疾病別の受診者の特性について分析した。

図1 訪日旅行者の受信者の推移 (2010-2019)



[結果1]

- ・ 過去10年間、当院を受診した訪日旅行者数は合計786名 で男性（401名、51%）、女性（385名、49%）で男女差はなく、平均年齢は39.6歳であった。
- ・ 年度別には2010年の8名から徐々に増え（受診者総数の中の訪日旅行者の割合0.1%）、2018年から急増し193名（同2.6%）、2019年には211名（同2.7%）であった。

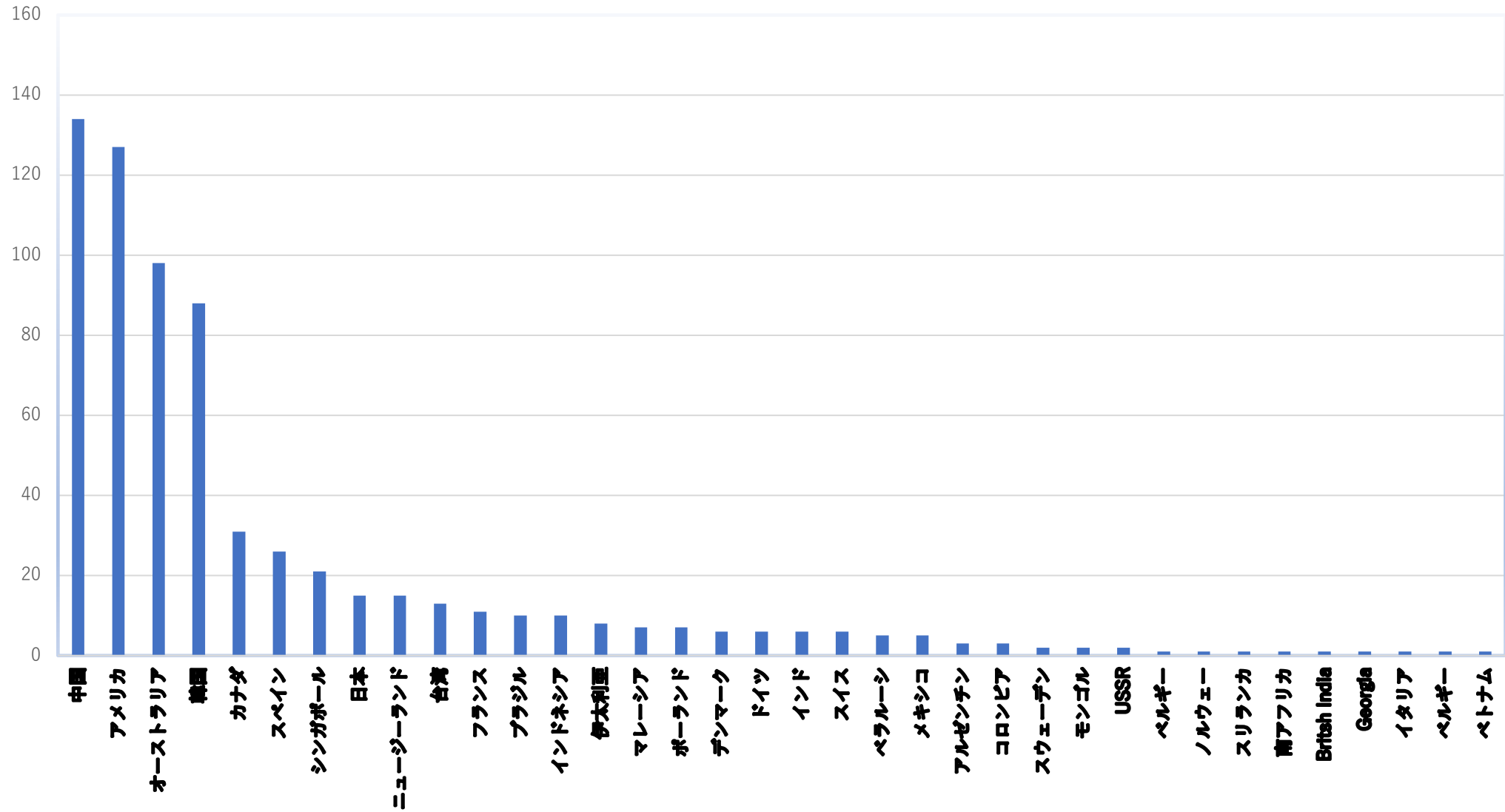
表 1 訪日旅行者の受診者集計（2010－2019）

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	total	平均	
観光客	8	16	33	30	58	71	99	67	193	211	786		名
総患者の割	0.1	0.3	0.5	0.5	0.8	1	1.4	1	2.6	2.7		1.2	%
男	5	6	21	19	25	35	44	33	98	115	401	51	%
女	3	10	12	11	33	36	54	34	96	96	385	49	%
年齢	48.1	41.4	42.8	47.2	45.4	39.3	35	30.4	33.5	32.5		39.6	歳
自己支払い	7	7	10	18	33	41	74	56	165	173	584	75.4	%
保険支払い	1	9	22	12	24	30	24	11	29	28	190	24.6	%

[結果2]

2010-2019年の国別の受診者数は中国、アメリカ、オーストラリア、韓国、カナダ、スペイン、シンガポール、日本（外国駐在）、ニュージーランド、台湾の順であった。

図2 過去10年間の受診者の国籍別集計（2010－2019）



[結果3]

受診内容を訪日受診者が急増した2018年、2019年を中心に分析した。

受診者は404名で男性52.5%（212名）、女性47.5%（192名）、平均年齢32.2歳であった。

地域別にはアジア51%（東アジア34.4%、東南アジア16.6%）、北アメリカ20.5%、オセアニア15.3%、ヨーロッパ10.6%、その他2.6%であった。

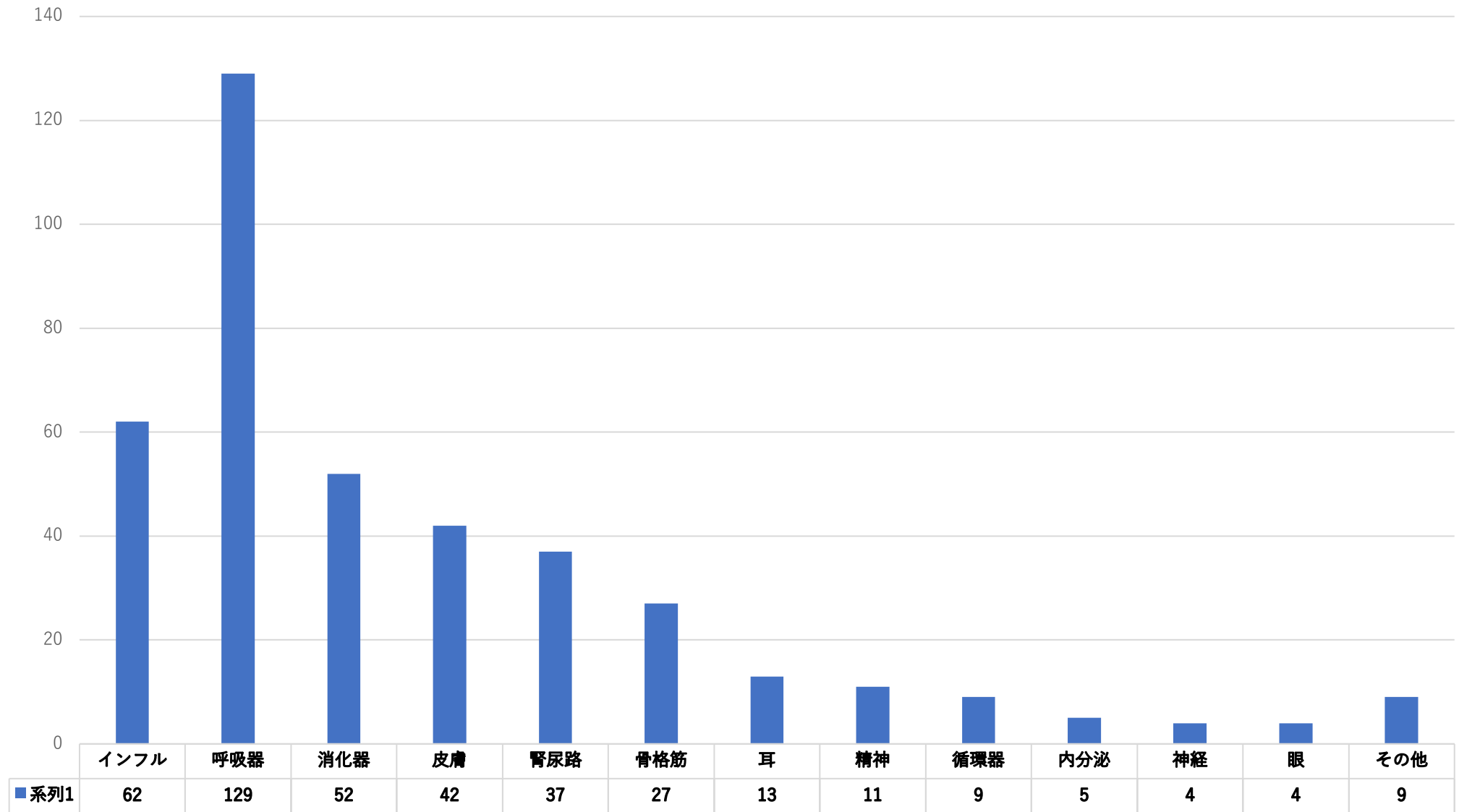
表2 訪日旅行者の受診者の地域別集計 (2018-2019年)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	%
東アジア	15	28	11	4	10	8	14	10	8	9	9	13	139	34.4
東南アジア	1	5	7	15	7	5	0	7	1	4	5	10	67	16.6
ヨーロッパ	0	2	5	6	2	1	11	5	4	2	2	3	43	10.7
北アメリカ	4	5	3	12	10	2	6	6	3	14	11	7	83	20.6
オセアニア	8	7	2	10	2	5	7	2	2	4	5	8	62	15.3
その他	0	0	0	0	1	0	3	0	2	2	1	1	10	0.2
合計	28	47	28	49	32	21	41	49	20	35	33	42	404	100

[結果4]

2018-2019年での症候別からみた疾病は呼吸器疾患31.9%、インフルエンザ15.3%、消化器疾患12.9%、皮膚疾患10.4%、尿路疾患9.2%、骨格筋新患6.7%、耳疾患3.2%、精神疾患2.7%、循環器疾患2.2%、神経疾患1.0%、眼疾患1.0%、その他2.3%の順であった。

図4 症候別疾病（2018－19）



[結果5]

代表的な国として中国、韓国、タイ、アメリカ、オーストラリアの各々に多い三大疾病は次の通りである。

中国は呼吸器 > 消化器 > インフルエンザの順で、
韓国は消化器、呼吸器 > インフルエンザの順、
タイはインフルエンザ > 呼吸器 > 骨格筋の順、
アメリカは呼吸器 > 尿路 > 皮膚・消化器の順、
オーストラリアは呼吸器 > 皮膚 > 消化器の順であった。

[考察]

- ・ 当院の訪日旅行者の受診が増えたのは外国人観光客が2018年から3100万人を超えたことと関連する。
- ・ 受診者の平均年齢が2010年度の48.1歳から2019年度に32.5歳へ低下したのは、子供を同伴した家族や若者の旅行が増えたからである。
- ・ 症候別に見た2018-2019年度の疾病は呼吸器疾患、インフルエンザ、消化器疾患、尿路疾患などの感染症が多く、外傷性はオーストラリアからのスキー旅行者に多かった。
- ・ 国別の疾患で中国は呼吸器疾患、韓国は消化器疾患、タイはインフルエンザ、アメリカは呼吸器疾患と尿路疾患、そしてオーストラリアは呼吸器疾患と皮膚疾患が多かった。
- ・ 訪日時期との関連や国別の特性と関わり、今後輸入感染症予防の課題である。
- ・ 診療所レベルで訪日旅行者を受け入れる役割分担を果たすには専門診療科病院や院外機関とのネットワーク連携が重要である。

ご静聴ありがとうございます。



531-0073 大阪市北区本庄西1-13-15

内科、呼吸器科

在宅診療

訪問リハビリテーション

イー健診センター

<http://goleeclinic.org>

lee@osaka.med.or.jp